



夭折ようせつの社会詩人
まつ おか こう ぞん
松岡荒村

Matsuoka Kōson

明治 12 年(1879)～明治 37 年(1904)

八代市生まれ

詩人、評論家

同志社入学後、洛陽らくよう教会員として社会運動に参加。廃娼問題、足尾鉍毒あしお こうどく問題、貧孤児救済運動ひん こ じ ほん そう ああきょうじん た なかしょうぞう おうに奔走し、「噫狂人田中正造翁」などの演説を行う。早稲田大学進学後は社会主義協会に入会、「三つの声」などの社会主義詩を発表して新詩人として高い評価を得た。北村透谷きたむらとう こく ろうまんの浪漫主義を最もラジカルに継承けいしょうした。しかし、従来の無理がたたり、肺を患わずらって25歳で夭折した。死後、荒村の詩や評論は『荒村遺稿いこう』として刊行された。